

国際文化専攻

異文化との交流によって成立する「国際文化」を探究

グローバル化・情報化が進展する世界を、既存の主権国家の枠組みだけでなく、異文化間の理解と交流によって成立する「国際文化」として捉え研究することが本専攻の目的です。そのため、本専攻では主に3つの研究領域に科目を配置しています。第一に「国際社会に存在する多様な地域文化間の相関関係」を扱う「異文化相関関係研究」、第二に「多文化・多民族社会での共生」を扱う「多文化共生研究」、第三に「様々なメディアが介在する情報化社会における文化交流・認識」を扱う「多文化情報空間研究」です。

様々な文化が共有する問題と構造に関する重層的な研究や文化を中心に政治・経済も加えた広い視野による国際社会の考察、どのような文化にも存在する「内なる他者」「内なる異文化」の解明、国際文化における日本文化の相対化、更には情報空間に成立する文化に対する国際文化学としての理解などに取り組んでいます。

異なる文化がせめぎ合い、かつ多様な文化情報がインターネット等を通して行き交う国際社会において、そこから生じる諸問題を主体的、自立的かつ創造的に研究し、問題解決につなげられる柔軟な知性としての「実践知」を備えた人材を育成します。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
一般入試、学内入試、社会人入試、外国人入試を通して、研究に必要な外国語(非母語)能力、研究の基盤となる学問分野の基本文献の理解、文献への論理的で批判的な思考力、主体的に研究・実践する意欲、自文化の枠にとらわれず通文化的かつ複眼的な視点を備えている者を受け入れる。博士後期課程では、これらに加え、研究基盤となる知識と方法論、先行研究の体系的理解、一次資料を発掘する一定程度の能力を有している者を受け入れる。	修士課程では「国際文化研究」「国際文化共同研究」を必ず履修し、国際文化学の学際性・専門性・方法論を身につける。3つの研究領域の科目を横断的に受講することを促すとともに、毎年1度以上の研究発表を課して異なる研究領域の教員が指導する。異文化間の理解や交流に関わる実務的な課題に取り組む科目によって「実践知」を身につける。博士後期課程では2017年度導入のコースワークを通して研究者としてだけでなく教育者としての研鑽を積む。外国人学生は日本語論文指導を受けることができる。	修士課程修了時には、3つの研究領域の基盤的な知識と方法論を十分備え、異文化間で生じる課題に対して、先行研究・事例を批判的に評価する一方で、現実の問題発見や実務的な問題解決に結びつけられるようになる。質的・量的調査を通して一次資料を発掘し、独自の視点を見出すことができ、研究結果を口頭表現や文章表現、あるいはICT等を活用して論理的に伝えることができるようになる。そして博士後期課程修了時には、研究成果を単著として発表できる独立した研究者、また実践知を尊重する後進を育成できる教育者となる。

研究室紹介

松本 悟 教授

開発や国際協力の研究は深くて楽しい！

「それ以外でもありえる」知 = フロネーシスの醍醐味

この研究室の特徴は3つのismです。Academism—私は学部で経済学、修士で地理学、博士で国際協力学を修め学際的な研究を重視しています。Activism—NGO職員として、東南アジアでの草の根協力や調査に基づくアドボカシー活動に15年余り関わってきました。Journalism—放送記者として5年余り、警察、行政、選挙、農業、原発、アイヌ民族、旧ソ連などを取材しました。これらの経験をもとにフロネーシス(実践知)を大切にしている研究室です。修士課程では広い意味での開発や国際協力を、博士課程では特に開発や国際協力の機能に着目した研究を志す院生を歓迎します。その上で、方法論を重視し、事象を多角的に分析できる力を備えた高度職業人や研究者を育てます。



学生・修士生の声

汪 牧耘(オウ マキウン) 修士課程 2017年度修了・東京大学大学院博士課程在籍中

知的刺激と周囲の人々の支えの中で、国際文化という学問全般への関心を深めています

大学院の魅力

自らの研究領域だけでなく、国際協力や表象文化といった他分野についても勉強できる環境で、国際文化という学問全般への関心を深めることができました。国際性にあふれたカリキュラムにより、多彩な視座とアプローチで異文化間の交流・理解を考察し、異なる地域や時代における、人々の生き方を学ぶことができます。

将来の目標

研究を通して、国際開発・援助に役立つことを目指しています。授業や国内外のフィールドワークに参加した経験は、貧困や資源について興味を抱ききっかけとなりました。経済発展の下で作られた、人と人、人と自然の関係や、世界各地における問題をより深く問い直すために、博士課程に進学しています。



研究テーマ

中国・石門坎の観光資源化 —異なるアクターが見出す価値のせめぎ合い—

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
浅川 希洋志 教授	心理学、人間発達学	フロー経験(flow experience)と精神的健康・Well-beingとの関連について	異文化社会論Ⅱ A・B
今泉 裕美子 教授	国際関係学、太平洋島嶼国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究	アジアや太平洋島嶼を中心に世界諸地域の植民地政策、そこでの人々の暮らし、社会、諸運動、移動、脱植民地化を分析し、現代世界の諸問題との関係性を追究する	異文化社会論Ⅰ A・B
大嶋 良明 教授	デジタル・メディア処理、音声情報処理	我々の知的活動や芸術的表現の手段、媒体としてコンピュータやインターネットを取り上げ、諸問題を検討する	国際文化研究B、多文化情報メディア論Ⅰ A・B
大中 一彌 教授	政治学、政治思想史(近現代のフランスを中心に)	ヨーロッパ連合地域の政治・経済・文化を公共空間とグローバル化の関係を軸に検討する	多言語社会論 A・B
甲 洋介 教授	ヒューマンインターフェース	道具の使いやすさ(usability)を実現するための設計方法論、日常生活を豊かにする情報空間と人工物のデザイン	※今年度は、特定の科目を担当しません
熊田 泰章 教授	テキスト論、文化記号論	文化の表出原理を、言語と言語以外のテキストについての理論的考察を通して解明する	※今年度は、特定の科目を担当しません
輿石 哲哉 教授	英語学、言語学	英語の形態論、英語史、辞書学、対照言語学。英語の語を中心とした領域が他の領域にどのように関わるか、さまざまな角度から検討する	多言語相関論Ⅲ A・B
佐々木 一恵 教授	歴史学、ジェンダー研究、異文化接触論、帝国主義研究	20世紀初頭のアメリカにおける帝國的国民主義と歴史意識とジェンダーの関係	国際文化共同研究A、多文化相関論Ⅲ、ジェンダー論
佐藤 千登勢 教授	20世紀ロシア文学、文学理論、ロシア(ソ連)映画	日常批判・社会批判の装置として、また人間の内的世界の縮図として、文学や映画のテキストを捉え直し、その多義性・重層的構造を分析する	多文化芸術論Ⅰ
重定 如彦 教授	情報科学	ユビキタスコンピューティング、分散OS	多文化情報メディア論Ⅱ
曾 士才 教授	文化人類学、中国民族学	華南少数民族のエスニシティ、日本華僑の文化の再構築とアイデンティティ	国際文化共同研究B マイノリティ社会論 A・B
高柳 俊男 教授	朝鮮近現代史、在日朝鮮人史研究、伊那谷地域研究	在日朝鮮人(広義)の歴史や文化を多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること	多民族共生論Ⅱ A・B
中島 成久 教授	文化人類学、ポスト・コロニアル研究	文化の理論、ナショナリズム・エスニシティに関する理論、コロニアル・スタディ、開発と文化、インドネシア(東南アジア)研究	ナショナリズム/エスニシティ論 A・B
松本 悟 教授	開発研究、国際協力、東南アジア地域研究	国際協力が引き起こす諸問題について、関わる主体(国家、国際機関、NGOなど)に着目して社会科学的な分析をする	多民族共生論Ⅰ A・B、国際協力論
森村 修 教授	現代哲学、現代アートの哲学、応用倫理学、近代日本哲学	現象学研究、「こころ・魂・身体」の哲学研究。「死者」と「亡霊」を含む「他者」概念に基づく、現象学的他者論の構築	多文化情報空間論Ⅰ A・B
リービ 英雄 教授	日本文学	戦後から現代までの文学の名作を読んで、時代の最先端のテーマを幅広くバイリンガルに読解する	多言語相関論Ⅱ A・B
栗飯原 文子 准教授	アフリカ文学	アフリカ現代文学(特に小説)、およびアフリカの映画・音楽を中心とする文化の研究	多言語相関論Ⅰ A・B
和泉 順子 准教授	インターネット上の情報流通に関する研究	主にITSや移動体通信などが扱う実空間情報を軸にしたインターネット上の情報流通と、情報技術の普及や社会性に関する問題に取り組む	多文化情報ネットワーク論 A・B
岩川 ありさ 専任講師	日本現代文学、クィア・スタディーズ、サブカルチャー研究	日本現代文学やサブカルチャーを対象としたジェンダー、セクシャリティとトラウマの研究。文芸創作などクリエティブ・ライティング。	多文化相関論Ⅰ A・B
廣松 勲 専任講師	フランス語圏文学、文学理論	カリブ海域文学およびハイチ系ケベック文学に関する、ポスト・コロニアル論およびメラノコリー論に基づいた地域研究	国際文化研究A 多文化芸術論Ⅱ

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目【修士課程】

国際文化研究A/B(各2)
国際文化共同研究A/B(各2)
多言語相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各2)
多文化相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ(各2)
多文化芸術論Ⅰ/Ⅱ(各2)
異文化社会論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
ナショナリズム/エスニシティ論A/B(各2)
マイノリティ社会論A/B(各2)
ジェンダー論(2)
多言語社会論A/B(各2)
多民族共生論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
トランスナショナリズム論(2)
国際ジャーナリズム論(2)
国際文化交流論Ⅰ/Ⅱ A・B(各2)
比較宗教文明論(2)
多文化情報空間論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
多文化情報メディア論Ⅰ A・B/Ⅱ(各2)
Thesis Writing A/B(各2)
Oral Presentation(2)
国際協力論(2)
国際人権論(2)
多文化情報ネットワーク論A/B(各2)
国際文化研究日本語論文演習A/B/C(各2)
修士論文演習A/B(各2)

設置科目【博士後期課程】

博士論文演習Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各2)
博士ワークショップⅠ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各1)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数